

平成30年度
鹿児島高専 COC+事業報告

平成31年3月25日

鹿児島工業高等専門学校

1. 国（文部科学省）と鹿児島県のCOC+事業および鹿児島高専におけるCOC+事業

1. 1 文部科学省のCOC+事業

地（知）の拠点大学の地方創生推進事業（COC+：Center of Community Plus）は、文部科学省が、平成27年度から、大学等が地方自治体や企業、民間団体等と産学官で、協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を実行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として実施するものである。我が国においては、「将来の人口減少が地域経済の縮小により加速する」ことが危惧されており、地方と東京との経済格差拡大が、東京の一極集中と若者の地方からの流出を招くとされている。そこで、文部科学省では、地方の大学が地域の自治体や中小企業等と協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定し、実行することを求めている。

具体的には、図1に示すように、大学等が地域の各種機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、地域が求める人材を育成するための教育改革を実行することと、COC+推進コーディネーターを配置し、事業協働地域の連携強化や取組みの進捗を管理することを求めている。事業協働機関が設定した目標達成に向け、大学力（教育・研究・社会貢献）を結集させ、事業協働地域における雇用創出と事業協働地域への就職率向上によって、地域活性化を目指す。

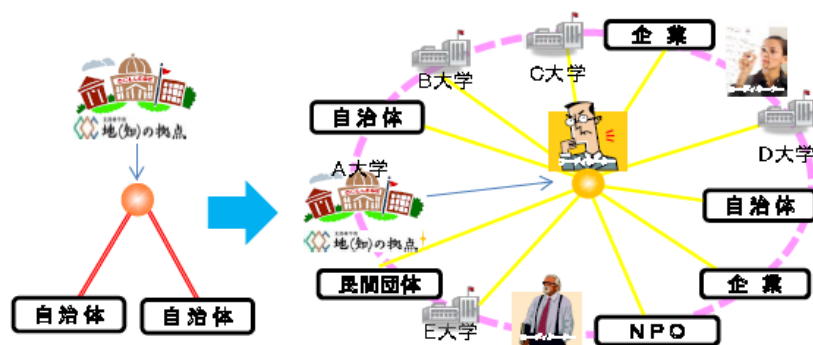


図1 文部科学省のCOC+事業のイメージ

1. 2 鹿児島県のCOC+事業

鹿児島県におけるCOC+事業は、平成27年度～平成31年度の5年間にわたる協働事業であり、図2に示すように、鹿児島大学を拠点校として、5大学（鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学）、2短大（鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学）と鹿児島工業高等専門学校（鹿児島高専）の8高等教育機関と鹿児島県、団体・企業等で構成される組織で実施している。地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進、参加大学等の「知」と地域の「地」の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大、地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化を目的として、図3に示すような具体的な地元就職率増を目標として、以下の事業を協働して推進している。

- ①地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ②地域企業の魅力を学生に伝える体験型、座学による講座、地元就職支援体制構築
- ③参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ④地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進
- ⑤鹿児島県内の大学等による地域ニーズの的確な把握と教育プログラム構築
- ⑥地域志向マインドの養成、インターンシップ
- ⑦地域企業との共同研究や委託研究の推進



図2 鹿児島県のCOC+事業協働組織



図3 鹿児島県におけるCOC+事業の数値目標

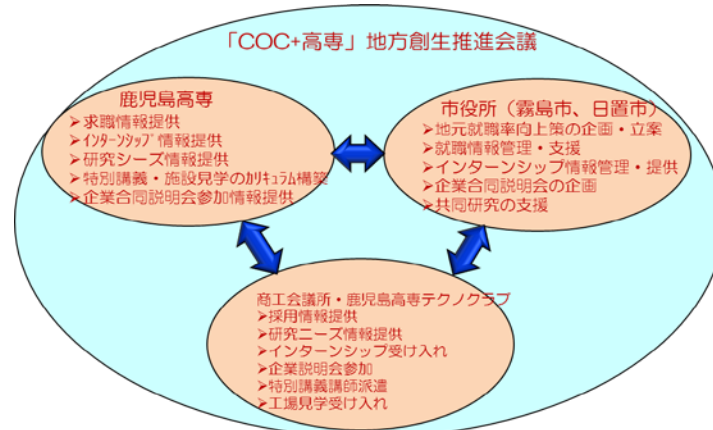
1.3 鹿児島高専のCOC+事業

上述の文部科学省と鹿児島県におけるCOC+事業を踏まえ、鹿児島高専における独自のCOC+事業に取り組んでいる。図4に示すように、知的・人的資源を有する鹿児島高専と包括連携協定を締結した公的資源を有する霧島市および日置市、技術的資源を有する鹿児島高専テクノクラブ会員企業代表、両市の商工会議所および商工会の代表、鹿児島経済研究所、鹿児島高専地域共同テクノセンターの産学官の13名で構成される「COC+高専」地方創生推進会議を設立した。それぞれが有する資源を活かして「地元就職率の向上」、「地域企業の活性化」、「雇用創出」、「新規産業育成」、「人材育成」、「共同研究の推進」に向け、地域共同テクノセンターが中心となって事業を企画、立案し、産学官が協働して、実施していくことになっている。



図4 鹿児島高専におけるCOC+事業の組織イメージ

これらを推進するために、「COC+高専」地方創生推進会議において、図5に示すような取り組みイメージで連携し、鹿児島高専を中心に、地元就職率向上を目指し、地方創生推進事業を展開している。具体的な推進事業は図9に示す5項目であり、その取り組み内容を以下に示す。



＜推進事業Ⅰ＞ 地域企業インターンシップの推進

図5 鹿児島高専におけるCOC+事業の連携イメージ

鹿児島高専は、地域企業や市役所の協力を得ながら学生の受け入れ企業の開拓



を行う。学生は、就業体験を通して、地域企業の魅力や良さを知り、新規学卒者の地元就職率アップに繋げる。

＜推進事業Ⅱ＞ 地域企業合同説明会の推進

鹿児島高専は就職指導、市役所は、説明会の企画と高専への橋渡し役を行う。学生の就職希望と企業の求人のマッチングを行い、学卒者の地元就職率の向上を目指す。市役所、商工会・企業、高専が一体となって就業マッチングの機会を設け、地元雇用の推進を図る。

図6 地域企業インターンシップ



図7 地域企業合同説明会

＜推進事業Ⅲ＞ 地域教育特別講座の推進

商工会議所・企業、市役所から鹿児島高専へ有識者、技術者、職員を派遣して、学生に地域の産業・環境・文化など地域資源に関する分野の講演を通じて、地域社会を理解してもらう“地域教育特別講義（集合教育、ゼミ、施設見学）”を実施する。将来の地域活性化を担う若年者の人材育成を行う。



図8 地域教育特別講座

＜推進事業Ⅳ＞ 奨学金による地元就職の推進

地方創生交付金などを活用し、市役所および企業が連携して地元での新卒者の雇用と定着を図るため地元就職者奨励金支給制度を設立し、新卒者の地元就職を促進する。

＜推進事業Ⅴ＞ 地域企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進

地域の特徴を活かした新産業創出を図るため、高専のシーズと地域企業のニーズをマッチングさせた共同研究を推進する。地域企業との共同研究を推進するための助成金制度を設ける。

推進事業Ⅰ	・地域企業インターンシップの推進
推進事業Ⅱ	・地域企業合同説明会の推進
推進事業Ⅲ	・地域教育特別講座の推進
推進事業Ⅳ	・奨学金による地域企業就職の推進
推進事業Ⅴ	・地域企業ニーズと高専シーズによる共同研究の推進

図9 COC+高専地方創生推進会議におけるCOC+推進事業

1. 4 鹿児島高専におけるCOC+事業目標値

これらの事業の成果の指標として、鹿児島高専における5年間の地元就職率とインターンシップ参加者の目標値を表1に示す。COC+事業の地元就職率とインターンシップの目標値は、平成26年度をベースに事業実施5年間の目標値を計画することとなっている。平成26年度の地元就職率16.4%は、地元就職者数の各科平均が約5名程度の実績から、毎年3~5名程度増やし、5年後には、例年の各科平均就職希望者数約30名の中から各科約7名(20%~30%)程度の地元就職を目標に、年度ごとに概ね2%~4%増として比例的に増やす努力目標として想定している。ちなみに、平成24年と平成25年の地元就職率は、それぞれ14.3%と13.8%と平成26年度より約2.1~2.6%と低い水準であったが、これを基準とすることはできなかった。また、就職学生数全体数値は平成26年度の135人を基準として5年間の目標値を算出しているが、これは年度ごとに変化するものであり、地元就職率に影響を与えるファクターである。さらに、インターンシップ参加者数の目標値は、平成26年度の29人をベースに、年度毎に3名~5名の増を目指し、最終年度は、50人を目標とし、4年生の在籍者数(190名~200名程度)全てが、インターンシップを受講すると想定した1/4即ち25%程度を県内企業のインターンシップを受講させる目標値としている。

表1 鹿児島高専における地元就職率とインターンシップ参加者目標値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
COC+参加大学 地元就職率 (A/B)	16.3%	18.5%	20.7%	23.0%	25.9%	28.1%
地元就職学生数 A	22	25	28	31	35	38
就職学生数全体 B	135	135	135	135	135	135
事業協働機関への インターンシップ参加者数	29人	34人	39人	44人	47人	50人

2. 鹿児島高専における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業

鹿児島高専では、霧島市、日置市、両市の商工会議所、商工会、鹿児島高専テクノクラブ（KTC）¹などと連携して地方創生推進事業を展開している。

2. 1 「COC+高専」地方創生推進会議の開催

本会議は、年4回の推進会議と年度末の評価会議を通じて、新卒者の地域企業への就職と定着を図るための方策と支援を検討し、実施している。

第1回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成30年5月30日（木） 13時00分～14時30分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

【議事】1) 地方創生特別講義の進め方について

第2回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成30年9月21日（金） 13時30分～14時40分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

【議事】1) 地方創生特別講義の進め方について



写真1 「COC+高専」地方創生推進会議

第3回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成30年12月14日（金） 13時28分～14時45分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

【議事】1) 霧島市合同企業研究会について

第4回「COC+高専」地方創生推進会議と事業評価会議

【日時】平成31年3月25日（月） 10時00分～12時00分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

「COC+高専」地方創生推進会議

【議事】1) 平成30年度「COC+高専」事業自己評価について

2) 平成31年度「COC+高専」事業計画(案)について

事業評価会議

【議事】1) 平成30年度「COC+高専」事業報告及び事業評価について

2. 2 学生に対する地元自治体や地域企業による特別講義・講演、企業見学の実施

地域企業への理解を深めるための特別講義・講演、企業見学と体験学習を通じ、地元を志向する学生を育成し、地元就職率及び定着率の向上に繋げることを目的として、平成27年度から、地域企業による特別講義と企業見学を行っている。また、専門的な見地から各企業の業務内容と技術を習得・体験する目的でも実施している。特別講義の実施状況を表2に示す。本年度は、前学期5回、後学期8回実施した。特

¹ 平成10年3月、南九州地域の有志企業が、地域との連携強化を学校の理念の一つに掲げている鹿児島高専と相図って設立した産学官連携組織である。

別講義風景を写真2～4に示す。

表2 地元自治体や地域企業による特別講義とOB・OG事例発表

	実施日	特別講義対象学科	特別講義実施企業等
前 学 期	6月26日	電子制御工学科	(株)ユピテル鹿児島
	8月7日	電気電子工学科	(株)トヨタ車体研究所
	8月7日	都市環境デザイン工学科	鎌田建設(株)
	8月8日	機械工学科	(株)藤田ワークス
	8月8日	情報工学科	(株)ソフト流通センター
後 学 期	11月7日	都市環境デザイン工学科	(株)みともコンサルタント
	11月12日	機械工学科	(株)中川製作所
	11月21日	情報工学科	ソフトマックス(株)
	11月21日	機械工学科、電気電子工学科	霧島市役所、OB(電子制御工学科 吉満 真一 准教授)
	12月5日	電気電子工学科	(株)明興テクノス
	12月5日	都市環境デザイン工学科	霧島市役所、OB(霧島市役所)
	12月12日	電子制御工学科、情報工学科	日置市役所、OB(日置市役所)
	12月17日	電子制御工学科	(株)A・R・P 鹿児島事業所



写真2 特別講義 ((株)みともコンサルタント)



写真3 特別講義 (霧島市)



写真4 特別講義 (日置市)

また、地域企業の協力により企業見学を実施した。表3に本年度の実施状況を示す。平成28年度までは、前学期と後学期に分けて、各科ごとに、10社実施してきたが、平成30年度は平成29年度と同様に、学内の行事予定やCOC+事業費削減の関係から後期の5社のみで実施した。工場見学風景を写真5～7に示す。

表3 地域企業による企業見学

実施日	対象学科	見学企業
11月15日	電子制御工学科	(株)九州タブチ
11月19日	電気電子工学科	国分電機(株)
11月20日	機械工学科	(株)山水
12月5日	情報工学科	(株)ユピテル鹿児島
2月15日	都市環境デザイン工学科	コーアツ工業(株)



写真5 企業見学 ((株)九州タブチ)



写真6 企業見学 (国分電機(株))



写真7 企業見学 ((株)山水)

2. 3 学生及び保護者に対する企業セミナーの実施

(1) 保護者向け校内合同企業セミナー 平成30年5月26日 於：鹿児島高専

学生は、保護者に相談して就職の方向性を出すことから、保護者にも県内企業を知ってもらうことを目的として、平成28年度から全学年の保護者及び学生を対象に実施している。今年度は、鹿児島高専テクノクラブ会員企業22社 保護者82名 学生15名が参加した。企業の事業説明を親子で聞くことで地域企業を理解し、企業は、親に業務を理解してもらうことで、将来の新卒獲得に向けた活動のきっかけとなる。アンケート結果では、“知らない企業を知ることができた”、“子どもの考えも知ることができた”との感想などが寄せられた。写真8、9は説明会の風景である。



写真8 セミナー風景1



写真9 セミナー風景2

(2) 鹿児島高専テクノクラブ会員企業向け求人支援セミナー 平成30年9月27日 於：鹿児島高専

地元就職率向上を目指し、鹿児島高専テクノクラブ会員企業向けに今年度初めて開催した。本校の就職活動のスケジュールや就職実績、インターンシップ等の説明を行った。鹿児島高専テクノクラブ会員企業36社が参加した。写真10、11は説明会の風景である。



写真10 セミナー風景1



写真11 セミナー風景2

(3) 霧島市大学生等向け合同企業研究会 平成30年11月7日 於：鹿児島高専

本事業は、霧島市主催、本校共催で昨年度より実施しており、今年度は霧島市内企業等31社、学生210名（本校195名）が参加した。写真12～写真14は、その実施風景である。



写真12 説明会風景1



写真13 説明会風景2



写真14 説明会風景3

（４）高専生のための地域企業研究会 平成31年1月23日 於：鹿児島高専

平成32年3月卒業・修了予定の学生を対象として、本校と鹿児島高専テクノクラブとの連携で開催した。なお、本研究会は、採用情報解禁前のため、採用情報を公表しない形で、あくまで地域企業を知ってもらうことを目的として行った。鹿児島高専テクノクラブ会員企業37社、鹿児島高専本科4年生、専攻科1年生117名が参加した。写真15～17は、研究会の開催風景である。



写真15 開会前の説明

写真16 ブースの様子

写真17 会場の様子

（５）鹿児島高専テクノクラブ会員企業への企業見学 平成31年3月5日 於：アルバック九州㈱

地域連携促進のため、鹿児島高専テクノクラブの会員企業である、アルバック九州㈱へ企業見学を行った。教職員20名が参加し、工場見学、意見交換を行った。

2. 4 インターンシップの推進

COC+事業による人材育成の一環として、地域企業との協働で、インターンシップを活用した人材育成を行っている。県内のインターンシップ受入企業開拓のため、平成30年5月24日県内企業148社へ依頼文書を発送し、71社から受入可能の回答を得た。本校産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブの会員企業46社へ受入依頼を行ったところ、26社から受入可の回答を得た。本年度のインターンシップ参加学生総数は192名、うち県内企業参加者は40名であった。

6月より4年生に対しインターンシップ受講指導を開始した。県内企業へのインターンシップ受講を奨励し、インターンシップでの就業体験を通して地域企業へ就職を希望する流れを構築していく予定である。表4にインターンシップ実績を示す。

表4 COC+開始年度からのインターンシップ参加者の推移

H26	H27		H28		H29		H30	
	参加総計	県内	参加総計	県内	参加総計	県内	参加総計	県内
29	105	40	155	42	156	52	192	40

2. 5 地域企業との学生を交えた共同研究の実施

COC+事業の一環として、本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC）とともに共同研究を行っている。特に人材育成、技術教育、工学教育の実践の場として、卒業研究や専攻科の特別研究を絡めて、学生を交えた共同研究の取り組みも行っている。研究の過程においては、本校に共同研究先の企業技術者が来校し、教員と連携した指導の実施や、企業側へ学生と教員が出向き、教員・学生と企業技術者とが、実験や研究の進捗、研究の問題点についてディスカッションするなどしている。学生にとっては研究の進め方などを現場技術者の声を聞きながら実践的に学ぶことのできる、大変貴重な機会となっている。

平成30年度も地域企業との共同研究を引き続き行っており、それぞれのテーマにおいて、研究成果をあげるべく取り組むとともに、参加学生が国内での学会や国際会議の場を通じて、研究成果を発表するなど高い教育効果も生んでいる。

3 まとめと今後の課題

平成 27 年 11 月にスタートを切った COC+事業では、地元定着促進プログラムのコンセプトとして、

- ・地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ・参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ・地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進

を挙げている。

鹿児島高専においては、「COC+高専」地方創生推進会議を年 4 回開催し、事業の進め方、進捗状況等を議論し、主に下記項目について、取り組んでいる。

- ①地域企業インターンシップの推進
- ②地域企業合同説明会の推進
- ③地域志向教育特別講義の推進
- ④奨学金制度による地域企業就職の推進
- ⑤高専シーズと地域企業ニーズによる共同研究の推進

これらの取り組みを通じ、実践的技術者として育成された学生が、地元の魅力を感じ、定着することで、地元活性化が促進されると考えている。

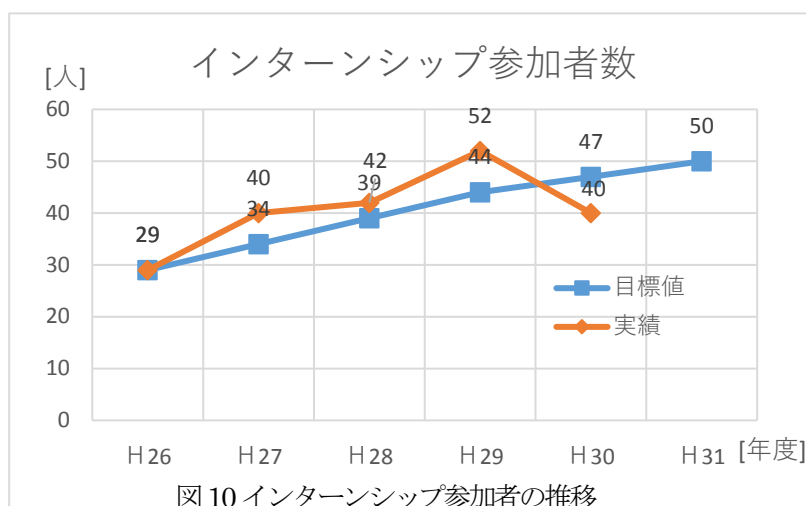
平成 27 年度から取り組んできた鹿児島高専における COC+事業の実績の推移を以下にまとめる。

①地域企業インターンシップの推進

COC+事業が開始された平成 27 年度以降の県内企業等へのインターンシップ参加者の推移を図 10 に示す。

平成 29 年度までは目標値を上回る参加者があったが、平成 30 年度の県内企業等での受講は目標値 47 名に対し 40 名（専攻科生 1 名含む）と目標値を下回った。

30 年度は本科 4 年生全体の 86%がインターンシップへ参加し、受講率が大変高かったが、一方で県内の受入企業・団体と参加希望学生とのマッチングが成立したものは、29 年度の 44 から 30 年度は 40 と減少した。近年の学生のインターンシップ自体への参加意思は高く、県外企業では希望者多数で選外となり参加できなかった学生もいる。新年度がスタートしてから早い時期での受入アナウンスを県内企業へ依頼することが必要であり、また、学生にとって充実した期間とするために、「魅力のあるインターンシップ、内容のあるインターンシップ」について、考えることも重要と思われる。



②地域企業合同説明会の推進

保護者向け校内合同企業セミナー（5 月 26 日）、霧島市主催本校共催による大学生等向け合同企業研究会（11 月 7 日）、高専生のための企業研究会（1 月 23 日）をいずれも本校第一体育館において開催した。

保護者向け校内合同企業セミナーは平成 28 年度から開始した取組みで、保護者懇談会の日に併せて開催している。保護者向け校内合同企業セミナーには、KTC 会員企業 22 社がブースを開設し、保護者 82 名、学生 15 名が参加した。

大学生等向け合同企業研究会には、霧島市内の企業等 37 社が参加した。本校学生 195 名を含む 210 名の学生が参加した。

高専生のための企業研究会には、KTC 会員企業 37 社がブースを開設し、学生 117 名が参加した。KTC 会員企業向け就職支援セミナーを 9 月 27 日に開催し、36 社 42 名が参加した。

③地域志向教育特別講義の推進

平成 27 年度より地域企業による特別講義を、平成 28 年度からは企業に加えて霧島市と日置市にもご協力いただき、行政からの視点による地方創生に関する講演も行っている。地域志向教育を軸としたこれらの取り組みを継続するとともに、平成 30 年度はキャリア教育としての各講義の位置づけを対象学年ごとに明確化し、1 年生から 4 年生の 4 学年 5 学科を対象に計 20 の企画を実施した。1 年生へは学習の始まった専門課程との関連を意識した形での企業技術者による特別講義、2 年生へは専門性を生かした地域での活動へ関心を高めてもらうために、霧島市及び日置市による地方創生に関する特別講義および、鹿児島で働く本校 OB・OG による講演、3 年生はエンジニアとして働くことへの意識を高めてもらうために、企業訪問によるものづくり現場の見学、4 年生には就職を念頭においた視点での企業講演を実施した。学生が地域企業の取り組みを知り、進路検討の参考となるとともに、自身の働き方やキャリア形成を考える機会となることを期待する。

④奨学金制度による地域企業就職の推進

地元就職推進のため、学生時代に貸与された奨学金の返還を免除（減額）するような地元就職者奨励金支給制度（仮称）の設立に向けて、平成 28 年度「COC+高専」地方創生推進会議の議題に挙げ、霧島市や日置市と検討を行った。その成果として、平成 29 年度、両市に奨学金返還免除（減額）制度が設立し、平成 31 年 3 月現在利用学生は 2 人（霧島市 2 人、日置市 0 人）となっている。

⑤高専シーズと地域企業ニーズによる共同研究の推進

今年度の企業との共同研究は、8 件 そのうち、地域企業との共同研究は 4 件である。KTC 企業との共同研究を行う教職員に、KTC 寄附金から直接経費相当額（1 件当り 20 万円を限度）を助成する制度を平成 29 年度に創設した。今年度の該当教職員への助成は 2 件であった。

これらの取り組みの成果指標となる本校の県内就職率の推移を図 11 に示す。

平成 27 年度に目標値を達成した後、平成 28 年度以降は減少傾向が続いている状況であったが、平成 30 年度は就職者 103 名のうち、県内就職者 19 名で、18.4%（目標値 25.9%）となった。目標には達しなかったが、昨年度の就職率から 3.9%の大幅アップとなった。

進路状況の変化としては、ここ数年の進学率の増加が大変顕著である。平成 27 年度以前は 30%弱で推移していた進学率が、平成 28 年、29 年度は 30%台後半へと上昇し、平成 30 年度は 4 割超の 43%に達した。本科卒業後の編入学先の選択肢が広がっていることに加え、学生や保護者の意識が大きく変化していることが伺える。

就職に関しては、昨今の人手不足等により関東、関西、中部地区を中心とした県外大手企業の採用意欲は大変高く、非常に多くの求人がある中で、就職希望者のうち、約 2 割の学生が地域企業・団体を選択したことは注目すべきと考える。しかしながら、依然として県外大手の採用意欲や、学生の都市部志向は高い状態であり、学生に対する地域企業を知る機会を提供し続けるとともに、進路指導にあたる本校教員との連携、地域企業に対してのインターンシップ受け入れ体制の構築や採用活動への積極的な行動を、継続

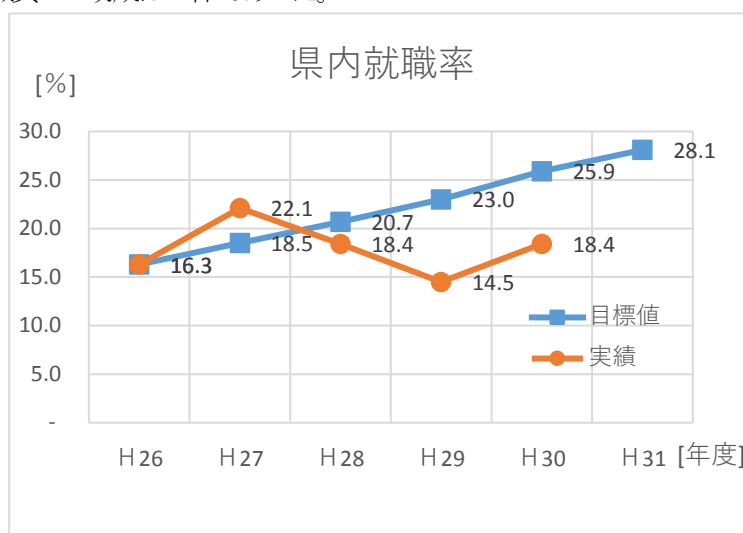


図 11 県内就職率の推移

的に促していく必要がある。

次年度以降の地元就職率アップの取り組みとして、①インターンシップのさらなる充実、②県内企業（本校OB・OG）による特別講義、体験学習など、企業の魅力を伝える取り組み、③共同研究により企業の魅力を知らしめて就職を促進する取り組み、④県内企業説明会、県内企業の求人採用案内の活性化、教職員に県内企業を知らしめる取り組み、⑤地元自治体による地方創生に関する特別講義を行い、学生に地元の魅力を知らしめる取り組みなどを予定している。

5月26日に開催した保護者向け校内合同企業セミナーに参加いただいた保護者の方にアンケート調査を依頼し、40名の方から回答を頂いた。34名（85%）が参加してよかったと回答した。その理由として、県内にも魅力的な企業があることを知ることが出来た 親子で参加して子供の考えを知ることが出来た等のコメントが寄せられた。子供の就職先として県内を希望する方が10名 分からないが半数以上の23名であった。来年度もセミナーを実施する場合に参加を希望しますかとの問いに、はいの回答が31名（78%）であった。参加企業22社のうち21社がアンケート調査に回答いただいたが、全社から、学生だけでなく保護者の方にも自社をアピールする機会となった等により参加してよかったとの回答を得た。

9月27日に開催したKTC会員企業向け就職支援セミナーに参加いただいた企業のアンケートで、本校への要望として、企業説明会の定期的な継続 企業研究会の開催時期の検討 会員企業と他企業の差別化等が挙げられた。

1月23日に開催した高専生のための企業研究会に参加いただいた37社のうち34社にアンケート調査に協力いただいた。多くの学生に説明が出来た、会社のPRが出来た等 全社が参加してよかった 次回も参加したいとの回答であった。1回当りの説明タイムをもう少し長くして欲しい等の要望も挙げられたので次回開催時の検討課題としたい。参加学生117名のうち109名がアンケート調査に回答したが、現時点で県内就職を希望している学生が17名 県外が74名 未定が25名という状況であった。県外を希望している 若しくは未定の学生に県内企業の魅力に気付いてもらう等の取り組みが重要となってくる。

昨年2月に鹿児島労働局が編集・発行したパンフレット「鹿児島で働くということ」は鹿児島と東京の生活を対比することにより、鹿児島に住み働く魅力について簡潔にまとめている。今年度は4年生一人一人に配付したが、来年度は低学年への配付を考えている。

参考資料

講義・講演及び企業見学等の実績一覧	11
講義・講演及び工場見学等の実施報告書	12
霧島市、日置市職員及びOB・OGによる地方創生特別講義アンケート	30

講義・講演及び企業見学等の実績一覧

No	日 時	形 式	企業・講師等	対象学科等
1	2018/6/26(火) 13:00～14:30	講義・講演	株式会社ユピテル鹿児島	電子制御工学科4年生
2	2018/8/7(火) 14:40～16:10	講義・講演	株式会社トヨタ車体研究所	電気電子工学科4年生
3	2018/8/7(火) 14:40～16:10	講義・講演	鎌田建設株式会社	都市環境デザイン工学科4年生
4	2018/8/8(水) 13:00～14:30	講義・講演	株式会社ソフト流通センター	情報工学科4年生
5	2018/8/8(水) 14:40～16:10	講義・講演	株式会社 藤田ワークス	機械工学科4年生
6	2018/11/7(水) 14:40～15:50	講義・講演	株式会社みともコンサルタント	都市環境デザイン工学科1年生
7	2018/11/12(月) 14:40～16:10	講義・講演	株式会社中川製作所	機械工学科1年生
8	2018/11/15(木) 13:00～15:30	企業見学	株式会社九州タブチ 国分工場	電子制御工学科 3年
9	2018/11/19(月) 15:10～16:40	企業見学	国分電機株式会社	電気電子工学科3年生
10	2018/11/20(火) 14:40～16:10	企業見学	株式会社山水	機械工学科 3年生
11	2018/11/21(水) 14:40～15:50	講義・講演	ソフトマックス株式会社	情報工学科1年生
12	2018/11/21(水) 14:40～16:00	講義・講演	・霧島市役所 企画部企画政策課 ・本校(鹿児島高専) 電子制御工学科(OB)	・機械工学科2年生 ・電気電子工学科2年生
13	2018/12/5(水) 14:40～15:40	講義・講演	株式会社明興テクノス	電気電子工学科1年生
14	2018/12/5(水) 13:50～14:50	企業見学	株式会社ユピテル鹿児島	情報工学科3年生
15	2018/12/5(水) 14:40～15:40	講義・講演	・霧島市役所 企画部企画政策課 ・霧島市役所 建設部建設施設管理課(OB)	都市環境デザイン工学科2年生
16	2018/12/12(水) 14:40～15:30	講義・講演	・日置市役所 総務企画部企画課 ・日置市役所 産業建設部農地整備課(OB)	電子制御工学科2年生 情報工学科2年生
17	2018/12/17(月) 14:40～15:40	講義・講演	株式会社ARP 鹿児島事業所	電子制御工学科1年生
18	2019/2/15(金) 14:40～16:20	企業見学	コアアツ工業株式会社	都市環境デザイン工学科3年生

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年6月26日（火） 13:00 ～ 14:30	
実施場所	電子制御工学科4年生教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科4年 39名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 准教授 吉満 真一	所属：株式会社ユピテル鹿児島 役職：開発部 ゼネラルマネージャー代理 氏名：今重 善宏 氏
実施内容	株式会社ユピテル鹿児島開発部今重様より電子制御工学科4年生に対して、地方創生特別講義を行っていただいた。 会社概要の説明では、鹿児島を開発拠点として最新のドライブレコーダなどの様々な製品が地方発で生み出されている旨の説明があった。自然豊かな立地環境で開発会議を行っている話などもあり、鹿児島で仕事ができることの良さも話された。事業内容に関する説明では、ドライブレコーダの役割や画像認識技術、最新技術を搭載した製品の紹介があった。 講義では実際の開発現場ではどのような点に着目し、どのようなプロセスでプロジェクトを進めていくのかという点について、概要をお話しいただいた。また、製品開発をイメージして、ある問題を取り上げ、課題解決のための話し合いを行うグループワークも実施していただいた。学生は熱心に討議を行い、最後にそれぞれのアイデアを発表した。質疑では、開発から製品化までに要する期間や画像認識技術の動向に関する質問があり、わかりやすく回答していただいた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年 8月 7日（火） 14:40 ～ 16:10	
実施場所	電気電子工学科4年教室	
実施形態	講義・講演	
対象学生	電気電子工学科 4年 37名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電気電子工学科 准教授 樫根 健史	所属：株式会社トヨタ車体研究所 役職：取締役常務役員 氏名： 竹之下 敏 氏
実施内容	電気電子工学科4年生を対象として、自動車業界の最近の動向や、学生への就職に関するアドバイスなど、幅広い内容での講義がなされた。 講義前半では、ブロック組み立て作業を通じたグループワークがあり、学生も楽しみながら生産工程のポイント等について学習していた。また、後半では、株式会社トヨタ車体研究所の事業内容を参考として、企業の求める人材像や将来的なキャリアパスについて様々な資料をもとに説明がなされた。 この講義を通じて、学生は、社会に貢献する会社・技術者とは何か、学生時代にやるべきことは何か、等を考える良いきっかけになったと思う。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年8月7日（火） 14:40～16:10	
実施場所	都市環境デザイン工学科4年教室	
実施形態	講義・講演	
対象学生	都市環境デザイン工学科 4年 36名	
担当者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 准教授 吉満 真一 都市環境デザイン工学科 准教授 山田 真義	所属：鎌田建設株式会社 役職：取締役副社長 氏名：鎌田 安典 氏
実施内容	8月7日（火）に都市環境デザイン工学科4年生を対象に地元企業を知ること、将来、技術者になるための知見を広める、地元企業がどのような専門技術を有しているかなど知識を身に付け、地方創生の重要性を認識することなどを目的に、特別講義を行った。 特別講義では、スライド、映像を交え、とても分かり易い講義を行って頂いた。建設業の特徴や種類、職種やモノを作るだけではなく、地域を作る、地域に貢献する役割を担っていることなど教授して頂いた。また、地方の建設業の役割、今後の建設業の課題というテーマでグループ討議も行い、学生自ら考えることで様々なことを身に付け、今後の技術者になるための知見が得られたと考える。また、地元に残りたいという学生もいることから、若い世代がさらに地方を盛り上げ、活気ある都市を創ることが重要だという気付きがあった講義であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 8 月 8 日（水） 13：00 ～14：00	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 情報工学科棟 合併講義室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 4 年 41 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター コーディネーター 嘱託教授 大竹 孝明 情報工学科 教授 玉利 陽三	所属：株式会社ソフト流通センター 役職：執行役員、鹿児島支店長 氏名：元吉 清隆 様（本校電気工学科卒） 役職：管理本部 氏名：牧瀬 裕美 様 役職：管理本部 氏名：岩下 幹治 様（本校情報工学科卒）
実施内容	地方創生特別講義として、地元企業である株式会社ソフト流通センターの元吉様、牧瀬様、岩下様をお招きして実施しました。 ご講演では“世界でやれることを鹿児島でやる”を掲げてかごしまソフト工場としてソフトウェア開発を行っていることの紹介があり、鹿児島でも問題なく行っている旨の説明がありました。また、個性を高め合う協調性、技術に挑戦する探究心、全力で努力する情熱を持ち合わせている人材を求めており、さらには人間力を高めようと常々考えておくことが重要とのお言葉を頂きました。 本校 OB として、在学中に自分磨きをやっておくこと、ボランティアやアルバイトの経験も積んで置くこと、さらには、今後、進学就職活動を行う上で、考えておくべきこともご助言頂きました。 地元鹿児島でもソフトウェア開発ができ、活躍できる企業があることを学生は肌で感じ取ることができ、大変有意義な講演会になりました。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30年 8月 8日（水） 14:40 ～ 16:00	
実施場所	鹿児島高専 機械工学科棟3階 機械工学科4年生教室	
実施形態	講義・講演	
対象学生	機械工学科 4年 43名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 准教授 東 雄一	所属：株式会社 藤田ワークス 役職：工場運営統括責任者 氏名：藤井 亮 氏
実施内容	株式会社 藤田ワークス 工場運営統括責任者の藤井様にお越し頂いて、機械工学科4年生へ向けての特別講義を実施して頂いた。 初めに、会社の簡単な概要等の説明があり、主な事業内容となっている高精度精密板金加工技術や受注から出荷までの一貫生産体制についての紹介があった。また、藤田ワークス殿が手がけた他社マシニングセンタのプロダクトデザインが賞を受賞したことなどの紹介もあった。 特別講義は「モノづくりと経営」という題目で行われた。モノづくりと経営とは、製品に価値を付加することで利益をもたらすことができ、そのためのプロセスの重要性について身近な例を用いて説明がなされ、工程の最適化についても簡単な例を用いて説明がなされた。製造工程の最適化がコストダウンや高効率化に繋がることを分かり易く説明して頂いた。また、個人ワークやグループワークを通して、① 歯車を製造するための工程設計、② 製品を販売するためのプロセス、③ 製造工程の最適化について検討し、学生の回答に対して実例を交えての解説が行われた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年11月 7日（水） 14:40 ～ 15:50	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 一般教育科棟3階 都市環境デザイン工学科 1年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 1年 42名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター コーディネーター 嘱託教授 大竹 孝明 一般教育科 准教授 田中 智樹	所属：株式会社みともコンサルタント 役職：技術部 調査・計画課長 氏名：佐々木 亮太 様 役職：総務部総務課課長 氏名：石橋 昭宣 様
実施内容	後期 COC+事業学内企業特別講義として、地元企業である株式会社みともコンサルタントの佐々木様、石橋様を迎えて実施しました。 ご講演では建設コンサルタントとはどのような仕事なのかという基本的な内容から始まり、社会資本を維持整備するために国と地方、行政と国民とを結ぶ役割を担う仕事であることをご説明いただきました。その後、みともコンサルタントが手がける具体的な事業内容の説明に移り、マリレポートなど学生たちも見知っている場所が紹介され、実感を伴った講義となりました。 ご講演の最後には様々なことにチャレンジすることの大切さを、ご自身の高専生活を振り返りながら伝えていただきました。1年生のこの時期に高専から地元企業という一つの選択肢を具体的に示していただけたのは大変ありがたく、有意義な体験となりました。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年11月12日（月） 14:40 ～ 16:10	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 機械工学科1年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	機械工学科 1年 44名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 准教授 吉満 真一 担任 一般教育科 教授 嶋根 紀仁	所属：株式会社中川製作所 樋脇工場 役職：統括部長 QMS 管理責任者品質保証室室長 氏名： 永田 善久 氏 (第二製造係 飯母 瑞樹 氏)
実施内容	機械工学科1年学生に向けて、中川製作所の永田様より、COC+地方創生特別講義を行っていた。 企業会社・業務の説明では、航空宇宙機器の部品の製作・加工もマシニングセンタや3D-CADなどを用いていることを紹介され、現在習っていることやこれから習うことが基礎となっていること、そして、工作機械の自動化が進んでも製作・加工に人間が携わることの必要性などをお話しいただいた。 グループワークでは、図面から座標を求める課題を通して、習っている数学の大切さ、そしてちょっとした気づきで解決に向かうことそのため視点を多くもつことの大切さをお話しいただいた。 鹿児島で働くことについて、工場は地方に力を移していること、若いうちは中央も魅力的であるが、後に鹿児島に帰ってくることもある。そのとき、地元で技術力と専門性の高い企業があることの重要性をお話しいただいた。 グループワークでてこずる学生もいたが、真剣に取り組み、聴講していた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年11月15日（木） 13:00 ～ 15:30	
実施場所	株式会社九州タブチ 国分工場	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③ <u>工場・現場見学</u> ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 3年 40名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 新田 敦司 准教授 吉満 真一	所属：株式会社九州タブチ 役職：総務部 総務課 氏名：末吉 幸一郎 様
実施内容	初めに企業説明を行っていただいた。多くの学生は、株式会社九州タブチが何を作っている企業なのかを知らなかった。 自分たちが知らないうちにお世話になっている製品を作っていることに驚きながら、熱心に聞いていた。 また、もの造りや会社の考え方についてもOGの経験談も交えて話をしていただいた。特に、自分の子供たちが働きたいと思える会社を目指していることに共感しているようだった。 その後、工場内の見学を行った。工場内では働きやすいように、常に改善を行っている所が随所に見られた。 また、工場内は整理整頓が行き届いており、現場で働く人たちの意識の高さに感心していた。 今回の工場見学では、多くの学生が興味を持ちながら真剣に説明を聞き、見学をしていた。また、質問も活発に行っていた。4年生から始まる就職活動に向けて様々な企業への関心を引き出すよい機会となり、大変有意義なものになった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 11 月 19 日（月） 15：10 ～ 16：40	
実施場所	国分電機株式会社（鹿児島県霧島市国分川原 1050-2）	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	電気電子工学科 3 年 36 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター （コーディネーター） 嘱託教授 大竹 孝明 電子制御工学科 准教授 吉満 真一（副センター長） 電気電子工学科 教授 奥 高洋（3E 担任）	所属：国分電機株式会社 役職：専務取締役 総務部長 氏名：森山 知己 氏 ほか
実施内容	国分電機株式会社様の本社工場（霧島市）にて、企業見学をさせて頂いた。見学に先立ち、会社の特色（照明器具の設計から製造まで一貫して行っている企業であること）や設計手法（熱設計・光束設計）について、概要説明がなされた（20 分程度）。次いで、工場内各所を巡りながら設備等を前にしての製造工程・作業内容の説明が行われた（60 分程度）。見学後には質疑応答の機会（10 分程度）が設けられ、学生からの拙い質問に対して丁寧な回答をして頂いた。学生にとっては、モノづくりの現場を知る良い機会であったと思う。見学内容としてはプレス加工 / 鋳造 / 塗装等の機械工学分野が多かったため、機械工学科の学生にも大変勉強になる内容なのではないかと思った。  会社説明風景  工場見学風景	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年11月20日（火） 14：40 ～16：10	
実施場所	株式会社山水 鹿児島工場（霧島市）	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	機械工学科 3年 41名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 准教授 吉満 真一 機械工学科 講師 白石 貴行	所属：株式会社 山水 役職：鐵鋼製造部 業務課長 氏名：有満 悦朗 氏
実施内容	11月20日(火)に、機械工学科3年生を対象に地元企業を知ること、将来、技術者になるための知見を広める、地元企業がどのような専門技術を有しているかなど知識を身に付け、地方創生の重要性を認識することなどを目的に工場見学を行った。 まずはじめに、株式会社山水 鐵鋼製造部の原田様より、会社概要についてスライドを使った丁寧な説明があった。次に、鹿児島工場 鐵鋼製造部の見学を行った。ここでは、軽量リップH形鋼など、災害時などになくはない災害発生時応急仮設住宅用の材料などを製造している装置を見学した。学生たちは、普段見ることのないロール状に巻かれた巨大な鋼板や大型機械設備を目の当たりにし、機械設備に対する興味が深まったようだった。見学後には、学生数名から会社の方への質問があった。学生達も、地元企業を知り、自らの将来を考えるよいきっかけとなった。	
 		

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 11 月 21 日（水） 14：40 ～ 15：50	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 情報工学科 1 年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	情報工学科 1 年 42 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 講師 池田 昭大	所属：ソフトマックス株式会社 役職：管理本部 次長 氏名：福添 寿 様 役職：ヘルスケアシステム開発事業部 システム開発部Ⅰ 執行役員部長 氏名：荒川 徹 様 役職：ヘルスケアシステム開発事業部 システム開発部Ⅰ 部長代理 氏名：井上 大輔 様
実施内容	ソフトマックス株式会社管理本部・福添様、ヘルスケアシステム開発事業部・荒川様、井上様より、情報工学科 1 年生に対して、特別講義を行っていただいた。 会社概要では、鹿児島県を開発拠点とするソフトマックス株式会社の製品、事業所などを紹介していただいた。製品では特に、電子カルテシステムについての説明があった。 講義では、医療情報システムについての概論を説明していただき、電子カルテシステムのメリットについて、電子カルテのシステム設計、製造、営業、販売、保守についての説明があった。また、システムにおけるサーバの構成、運用についても説明していただいた。 講義の最後には、「医療事故を防ぐためにどのような方法があるか」というテーマで学生がグループワークに取り組んだ。各グループが熱心に討議を行い、グループのアイデアを発表した。また、発表に対して丁寧なコメントをいただき、医療事故を防ぐ新しいシステムについても紹介していただいた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

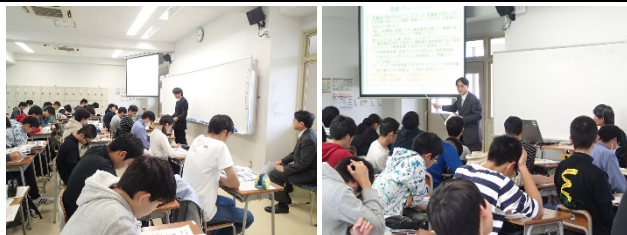
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 11 月 21 日（水） 14：40 ～16：00	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 大講義室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 2 年 43 名 電気電子工学科 2 年 43 名 計 86 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 准教授 北 菌 裕一	- 霧島市役所 企画部企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏 - 本校 電子制御工学科 准教授 吉満 真一
実施内容	地方創生というテーマで主に人口減少がもたらす影響について講演頂いた。 東京圏への進出が増加している点や、出生率の低下など、該当学生にとっても身近な内容となっており、学生も興味深く聴講することが出来た。 特に、地元の企業等の説明では、自分の知らない企業等が多いこと、地元を活性化するために地元企業が取り組んでいる事など、今後、進路を検討する際、貴重な内容となっていた。 今後、約 2 年間かけて進路を検討していく中で、幅広い選択肢をもつためにも、次へと繋がる講演であったと思われる。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 12 月 5 日（水） 14：40 ～ 15：40	
実施場所	電気電子工学科 1 年生教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 1 年 43 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 講師 町 泰樹	所属：株式会社 明興テクノス 役職：技術本部 技術ソリューション部 部長 氏名：東 伸一 氏 役職：業務本部 総務部 庶務課 課長 氏名：伊東 勝 氏
実施内容	株式会社明興テクノス東様と伊東様より、電気電子工学科 1 年生に対して、地方創生特別講義を行っていただいた。 講義の前半では、伊東様より、会社概要に関する説明をしていただいた。上下水道施設の電気計装施設やダム監視施設の電気通信設備等に関する事業について紹介しながら、製品やシステムの設計・開発のみならず、製造から施工、その後の保守・保安メンテナンスまでを包括的に取り扱っていることや、社会のインフラを影で支えていることの意義について、わかりやすく説明をしていただいた。 後半は、東様より、技術部門の業務内容や、業務を遂行する上で必要な資格・技能等について紹介していただいた。また、保守・保安点検の事例をもとに、顧客からの質問や要望に応えるために、どのようなことを学んでいく必要があるのかを考えるグループワークも実施していただいた。学生たちは、熱心に話し合いを進め、最後にグループごとの考えを発表した。東様からは、学生たちの発表内容（学ぶべき項目）と授業科目や資格をリンクさせながら、会社の実務を遂行するためには、学校で学んでいることをしっかりと理解していることが重要であることが述べられ、学生たちを激励していただいた。 具体的な業務や資格に関する講義をしていただいたことで、学生たちは会社での実務や将来の職業に関するイメージを明確にし、同時に普段の勉強や資格取得の重要性を再認識している様子であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年12月 5日（水） 13:50 ～ 14:50	
実施場所	株式会社ユピテル鹿児島	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	情報工学科 3年 35名（38名中3名欠席）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター長 准教授 豊平 隆之 情報工学科 講師 古川 翔大	所属：株式会社ユピテル鹿児島 役職：代表取締役 氏名： 高木 紀 氏
実施内容	株式会社ユピテル鹿児島での企業・工場見学を行った。 簡単な企業説明の後に5グループに分かれ、順番に工場やオフィスを案内していただいた。工場内ではアームロボットを用いた製品の組み立てや画像処理による製品のチェックなど学生も興味深く見学していた。オフィス内では、鹿児島高専を卒業した先輩社員の仕事風景など、職場の雰囲気を体験することができた。 見学の最後には、代表取締役の高木様より自身の経験を踏まえた貴重なお話をしていただき、実際に製作・販売している製品について紹介していただいた。多くの製品が情報工学科に関連しており、学生も興味をひかれていた。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年12月5日（水） 14:40 ～ 15:40	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 都市環境デザイン工学科2年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	都市環境デザイン工学科2年42名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 准教授 村上 浩	- 霧島市役所 企画部企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏 - 霧島市役所 建設部建設施設管理課 道路維持第2グループ 技師補 福山 哲平 氏
実施内容	西村様のお話 ①少子高齢化、非婚化晩婚化による出生率の低下、出生率の低い東京圏への人口集中によって地方では人口減少が続いている。 ②人口減少は市場の縮小、社会保障制度の崩壊、競争力の低下、地域の活力の低下、税収の減少による行政サービスの低下をもたらす。 ③鹿児島県や霧島市では地元企業に就職した学生の奨学金の返還の支援、情報交換会や合同企業説明会を開くなど学生の県内企業への就職を支援し、人口減少に歯止めをかける取り組みをしている。 ④意欲的な取り組みをしている地元企業の紹介(キリシマ精工、藤田ワークス、マイクロカット、九州タブチ) 福山様のお話 ①自分は本校都市環境デザイン工学科第一期卒業生であり、現在道路の維持管理を担当している。 ②学生時代には授業を真面目に受け、よく勉強すること、部活など何か熱中できるものを持つこと、他人に迷惑をかけない範囲でよく遊ぶことが大切である。 ③霧島市役所には本校の卒業生がたくさんいる。皆さんもぜひ霧島市役所に就職してほしい。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 12 月 12 日（水）14：40～15：30	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 大講義室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 2 年 43 名 情報工学科 2 年 40 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター コーディネーター 嘱託教授 大竹 孝明 一般教育科 教授 嵯峨原 昭次 准教授 熊谷 博	所属：日置市役所 役職・氏名：総務企画部企画課 政策推進係 係長 馬場 学 氏 役職・氏名：産業建設部農地整備課 農地整備 2 係 主査 内 大輔 氏
実施内容	次の 2 つの日置市職員の講演を通じて、本校学生のキャリア教育を行った。 ① 日置市の地方創生について 「日置市の課題」と「今後の展望（地方創生）」について、馬場 学氏の講演を聴講した。 「課題」については、人口問題、産業振興問題、若者の地元定着等であり、「今後の展望」については、地方創生に関する少子化対策事業や再生可能エネルギーの推進等の内容であった。 ② O B の就業事例発表 「農地整備課の仕事」、「民間企業」、「公務員」、「県内で働くことと県外で働くことの違い」及び「仕事をするうえで大切なこと」について、本校土木工学科 O B の内 大輔氏の講演を聴講した。 内氏は本校卒業後に民間企業に就職された後、日置市に入庁された貴重な経験の持ち主である。 なお、聴講後には質疑応答やアンケートへの記入を行った。 以上のように、県内の地方公共団体が抱える重要な課題や展望（地方創生）等や本校卒業生の地元での活躍等、貴重なお話を拝聴でき、本校の学生にとって大変有意義な講演であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 12 月 17 日（月） 14：40～15：40	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 電気電子工学科棟 2 階 電子制御工学科 1 年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 1 年 41 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター コーディネーター 嘱託教授 大竹 孝明	所属：株式会社 ARP 鹿児島事業所 役職：所長 氏名：吉松 正和 様 役職：開発グループ 氏名：橋口 潤哉 様
実施内容	地方創生特別講義として、地元企業である株式会社 ARP 鹿児島事業所の吉松様、橋口様をお迎えして実施致しました。 今回の特別講義では、前半会社の概要などの説明、後半ではワークショップ「マシュマロタワーを完成させろ！」を実施頂きました。 前半では、ハードウェア、ソフトウェアの両面に関わる受託設計、自社製品開発やコンサルティング等の会社の業務や生い立ちの説明に加え、AI,IoT や鹿児島にとって重要な農業分野での技術開発の貴重なお話しをお聞きできました。 後半では、スパゲッティーとマシュマロで作るマシュマロタワーの作成を体験しました。20 本のスパゲッティーを使い、マシュマロを頂上に置いたタワーの高さを競うものです。 学生は 8 チームに別れ、各チームがチームワークを発揮し、それぞれ個性のある立体構造の高いタワーを作ることができました。 このように、「ワークショップ」を取り入れて、最近注目されています「アクティブ・ラーニング」のような形で講義を行って頂き、学生にとって貴重な「ものづくり」を体験することができ、大変有意義な講演会になりました。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 31 年 2 月 15 日（金） 14：40 ～16：20	
実施場所	コーアツ工業株式会社の工事現場（第一工大周辺）	
実施形態	工場・現場見学	
対象学生	都市環境デザイン工学科 3 年 36 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	- 都市環境デザイン工学科 教授 堤 隆 - 准教授 内田 一平 - 電子制御工学科 准教授 吉満 真一	所属：コーアツ工業株式会社 役職：代表取締役社長 氏名：吉田 三郎 様
実施内容	都市環境デザイン工学科 3 年生を対象として、霧島市国分(第一工大近辺)で施工中のプレストレスト・コンクリート橋建設現場を見学した。この施工現場は鹿児島県 始良・伊佐地域振興局の街路事業新町線で、JR 日豊本線の東西にある 2 つの県道を高架で JR 線と立体交差させて連結させるものである。なお、同現場は本校の卒業生も数多く活躍するコーアツ工業株式会社のご協力のもと見学会は実施された。 現場見学会は生憎の空模様の中で実施されたが、1) 工事概要、2) プレストレスト・コンクリートの概略、3) 現場各所の見学と説明 を実働する現場内で安全かつ丁寧な企業側からの対応の中で行われた。また、各所の見学先では、多くの方々が学生に寄り添い、突発的に出される質問にも対応していただいた。 見学したプレストレスト・コンクリートは、3 年後期に開講された構造力学で学んだ知識であったことから、その実物や実際の適用状況を目の当たりにでき、知識の幅を広げることができたものとする。また、仮囲いにより建設現場の稼働状況を間近でみる経験が少ない現代の学生にとっては、希少な経験をしたとも考える。そして、見学中に学生より発せられた言葉として、技術者の格好良さや整理整頓の行き届いた資材や重機の配置状況への感銘、何より自らが学ぶ技術の社会適用状況を再認識できた等が聞かれた。	



霧島市、日置市職員及び
OB・OG による地方創生特別講義
アンケート

特別講義(H30.11.21 14:40～16:10)

対象学科：機械工学科 2 年生 43 名、電気電子工学科 2 年生 43 名

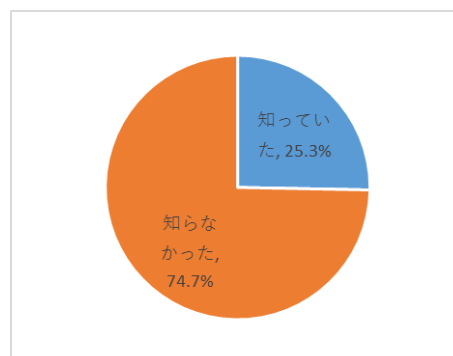
・講師：霧島市役所 企画部 企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏

・OB 事例発表：本校 電子制御工学科 准教授 吉満 真一

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

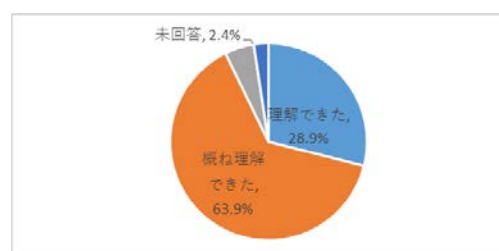
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	21	25.3%
2	知らなかった	62	74.7%
	N(%ベース)	83	100

・授業・・・6件
・マスメディア(テレビ・ネット等)・・・8件
・両親・知人・・・2件
・その他・・・0件



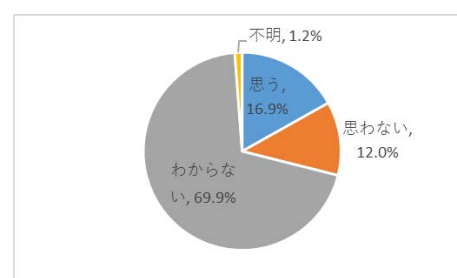
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	24	28.9%
2	概ね理解できた	53	63.9%
3	あまり理解できなかった	4	4.8%
4	理解できなかった	0	0.0%
5	未回答	2	2.4%
	N(%ベース)	83	100



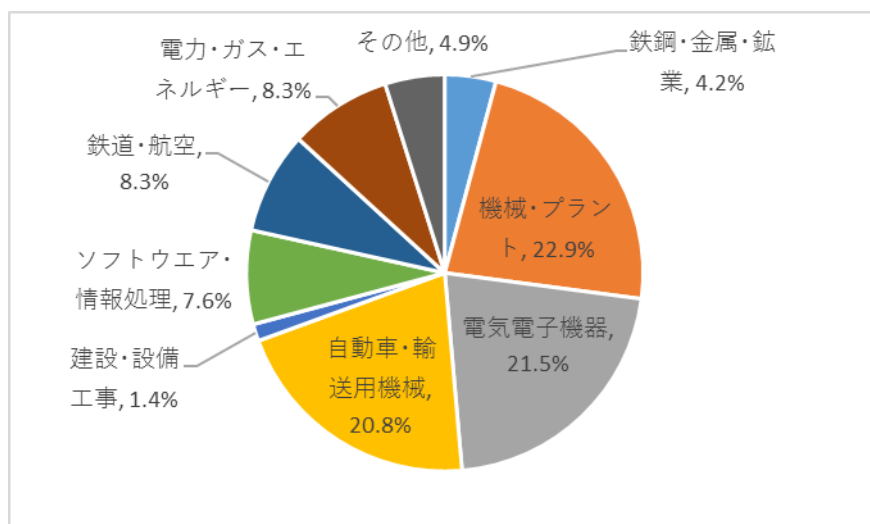
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	14	16.9%
2	思わない	10	12.0%
3	わからない	58	69.9%
4	不明	1	1.2%
	N(%ベース)	83	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	6	4.2%
2	機械・プラント	33	22.9%
3	電気電子機器	31	21.5%
4	自動車・輸送用機械	30	20.8%
5	建設・設備工事	2	1.4%
6	ソフトウェア・情報処理	11	7.6%
7	鉄道・航空	12	8.3%
8	電力・ガス・エネルギー	12	8.3%
9	その他	7	4.9%
	N(%ベース)	144	100



5. 今回の特別講義(霧島市による講演)を受けての感想を自由に書いてください。

自分の働く場所や霧島市の現状を受けて考えが大きく変わった。
人口減少に対して取り組みがあることを初めて知った。
県や市が自分が知らない取り組みをしていて、色々やっているんだと思った。意外と霧島市にもたくさんの工場とかがあるのを知って驚いた。
おもしろかった。
地元企業にも少し興味がわいた。
将来1.3人程で高齢者を支えるのはとてもつらい状態ですが、だからといって簡単に産むことのできない社会だと思っていたので、少し考えが変わりました。
人口減少に東京圏の出生率に関係している事に驚いた。霧島市に世界から注目を受けている企業があることを初めて知った。
もっと多くのエンジニアを出すべきだと思った。
鹿児島にも良い企業があることを知れてよかった。
県内で働きたいと考えていたのでいい話を聞けた。
普段ＴＶなどで情報を得ていないので、はじめて知ったことが多かった。
鹿児島県や霧島市が小児化対策でたくさんの対策など考えていてすばらしいと思いました。
新たな情報を得られ、霧島市についてよく知ることができた。
ためになった。
席を自由にすればもたもたせず早くスタートできたと思う。講義としては地方創生の取りくみの内容が分かりやすかったが、どこまで成果ができたかも明らかにしてほしい。
地元もいいと思った。
地方創生について今まであまり知らなかったが今回の講演で知ることが出来た。
地方の方々はとても苦労してるなと思いました。今の世の中は税金が高かったり、保育園が少なかったりなど子供の作りづらい世の中になってると思います。でも僕は子供がほしいのでいいに貯金していきたいと思います。
知らないことが多くておどろきでした。
霧島市にもこんなに企業があるとは知らなかった、出席率が2.1を超えないと人口は止まらなと書かれているが、子供を1人より2人の方がお金はかかるし時間もかかるため、支援や何か得のあるものの取り組みがない限り厳しい事だと思った。
霧島市にもいろいろな企業があることを知った。自分たちが働く年になったときに高齢の方々を支えるのがいままです以上にはたいへんだと知り不安になった。
鹿児島県は比較的人口が少ないことがわかった。鹿児島県は小児化が進んでいる事が分かった。
鹿児島の少子化が思った以上に深刻で驚いた、鹿児島でできるエンジニアの仕事もたくさんある。
地元に残るのもいいと思った。
霧島も頑張っていることを知った。
自分は地方創生についてあまり関心はなかったけど、奨学金返済支援や就職支援などを行っていることを知って自分も奨学金を頂いているのでとても感慨深い講演だった。
大変なんだと思った。
大変なことだと思った。
少子高齢化問題は非常に難しい問題であり我々にも責任のあることであるということがわかった。また、生産者数の減少だけでなく生産者の質の低下もこの問題の影にかくれていることを知ることができた。
人口減少による影響が思いのほか大きくておどろいた。人口は多すぎてもいけないし、少なすぎてもいけないから調整が難しいなと思った。
自分たちが知らないところで市をよくしようとがんばっていることを知れて良かった。
地元でどんなことをしているのかがよくわかり、自分も地元で働きたいと感じました。
今の鹿児島や日本全体の人口の状況を詳しく知ることができた。自分が知らない鹿児島県や霧島市の取組があり驚いた。鹿児島県にも色んな企業があることがわかった。
今の日本の厳しい状況を知った。少子高齢が進む中で我々が今後日本を支える必要がある。
今回の特別講義を聞いて、鹿児島県や地方の人口減少が進んでいることを初めて知った。そして地方の人口減少に歯止めをかけるためのさまざまな取組が行われていることに感心を受けた。
地方創生について知ることができた。これからの選択肢が増えた。

日本の人口減少例を聞いてとてもびっくりした。鹿児島県に人を残そうとする取り組みがあることを初めて知った。今回の講義を聞いて、地方の企業に就職するのもありかなと思った。また、これからの地方自治体の取り組みによって就職先を地方の方に決めようと思った。

霧島市が人口減少しているという事実を知って非常に驚きました。自分が就職を考える際には地元での就職も考えていこうと思います。

霧島市も少子高齢化に備え、他の地域に置いて行かれないような対策をとっていることに関心した。この創生事業が実を結び、地方の産業がより一層活発になってほしいと思った。

霧島市が60億円くらい、子育て事業にかけいているのに驚いた。

全国的に見ても人口が減っているのに鹿児島県では県外に行く人が多くより人口が減っていることを知って、企業がつぶれるんじゃないかなと思った。今から就職活動が始まるが、企業の近年の状況、今後の状況を見て判断しないといけないなあと思った。

霧島市の知らなかったところを知ることができた。

人口減少は深刻な問題だと思った。

人口減少が進んでいるなかで、霧島市がやっている取り組みが多いことに驚いた。

市が地方創生のために行っていることがよく分かった。自分が市のためにできることは何かをもっと考えなければいけないと思った。

おもしろかった。

地方創生について知ることができた。

いろいろな地方の創生業を調べてみたいと思った。

鹿児島で仕事をするのもありかもしれないが、やりたい仕事は鹿児島にない為、県外に出るしかないかもしれない。

人口が減っているなと思った。

奨学金制度や合同企業説明会など、自分達に直接関係する話もあったので、ためになった。

鹿児島を発展させるためにいろいろな事業をしていると思った。

地方では様々なことが行われているのを初めて知った。これからはもう少し興味を持っていきたい。

人口減少の深刻な問題についてよく分かった。

人口減少に対しての市の取り組みを知ることができた。

霧島にもいろいろな事業があるので、よく知っておきたいと思った。地元に残ることで、得られることもあると思った。現在では鹿児島でも様々な職業につけるといこともわかった。

県内で働こうかなと思った。

将来は県外で働こうと思っていたが、鹿児島県の取り組みや、出生率などの話を聞いて、県内に残って働くのもありだなと思い、選択の余地が増えたと思う。若者の県外流出率が高いのは都市圏へのあこがれなど、共感できる理由があるので、都市圏に負けないぐらいの活気と魅力のある鹿児島県（霧島市）を作ってほしいなと思った。

地域の過疎について考えさせられた。

人口減少についてもっと考えていかないといけないと思った。

自分は出生率への貢献は無理なのでせめて鹿児島にしようと思った。

残りたいと思った。

自分達があこがれる東京や大都市への就職が鹿児島県の人口減少、地方創生が進まない原因になっていることが理解できた。就職するつもりではいるが、県内、県外、どの企業に行きたいなど、具体的な事はまだ決められていないので、県内就職のメリットについても、もっと調べていきたいと思った。

素晴らしい講演だった。

現在の日本の状況と仕事のことについてよく分かった。

とても分かりやすく、ここまでの取り組みが行われてと知れてよかった。自分は元から県内に残る気持ちはあったけどその気持ちがより強まった。

いろいろな仕事について知れて良かったと思った。

東京に出ていく人が多いことが問題であるということがよく分かった。地方で働くことも視野に入れておこうと思う。

人口減少が止まらなくなったと聞いて、特に、東京圏への一極集中しているのでなおさら人がいなくなっていた。

地方について興味をもてた。

色々な仕事を知った。

人口減少難しいと思った。少子高齢化に対する意識を持ったほうが良いと思った。

6. 今回の特別講義(OB 事例発表)を受けての感想を自由に書いてください。

自分にもいろいろな可能性があると感じた。
県内でも働く高専生が多いことが分かった。
県内でも働いている人がいるんだなと思った。
自分の将来についてあと2年で決めなければならないため少しあせった。
とても参考になった。
県内で働いている卒業生も多いことを知った。
現実を見ながら生きることが大切だと思った。
ありがとうございました。
普段聞くことのない企業を知ることができて良かった。
まとまったプレゼンで見習うことがたくさんあった。
自分のためになった。
そろそろ将来のことを考えようかなと思った。
様々な企業で卒業生が活躍しているのがわかった。
物流関係の仕事が将来伸びてきそうだなと思った。
卒業したら県外で考えがあり、鹿児島にのこっている人がたくさんいることを知らなかった。もう少し将来の自分を考えられる一歩になったのでよかった。
卒業生が県庁や市役所で働いているのを知らなかったので驚いた。
鹿児島の良い所を沢山知ることができた。思ったよりも多くの人が県内に残って大勢で頑張っていた。
鹿児島の魅力を見直すいいきっかけになったと思う。プレゼンテーションのやり方を少し学べた。
霧島市は地元に残ってほしいためにいろいろ誘導していることが分かった。
楽しい仕事やりがいのある仕事をみつきたい。
改めて高専卒業後について考えることができた。様々な選択肢があることを知れたので勉強を怠らずに慎重に考えていきたい。
「ファミリーマートの店員なんかに」という表現はどうかと思う。馬鹿にしているのかと思った。
高専にはさまざまな就職先があり、さらにその中にもいろいろな仕事があることはおどろいた。
自分のスキルを生かせるような仕事につきたいと思った。
可能性がたくさんあることを知れて良かった。
人口が減っていて、これからもっと、地方から人が減っていくと思うので地方創生をしているのだと思いました。
先輩方が色んな企業で働いていて驚いた。色んなチャンスがあるんだなと思った。
とてもためになった進路について悩んでいるので参考にしていきたい。
自分の将来のしごとについての選択肢の幅が広がっていい経験になったと思う。
将来の仕事のことを考えておく必要があると分かった。
高専卒業後の進路など詳しくきけてよかった。
OB事例発表を聞いて、早い段階で将来の事を決めたいと思った。
地元の企業で働いている先輩方も多くいらっやあって、また教員で活躍されていると聞けてよかった。
県内に残らないといけない、県外で働いてみたいという2つの気持ちが揺れた。インターンシップなどを通じてゆっくり決めていきたい。
地元に戻ってきて仕事に就きなオスのが難しいみたいなので、しっかり考えて仕事を決めたい。
県内にもたくさん就職している人がいて驚いた、社長なんかになっている人もいることに驚いた。
OBの話は自分の「将来の道の1つ」として考えることができたので良かった。
就職先が食品系などもあって、かなり多岐にわたって就職しているんだなと思った。
県内に残って働くのもいいと思った。
特別講義を受けて自分がもっているスキルを活かせる仕事につきたいと思った。
先輩たちの活躍がよく分かった。
興味がわいた。

OBの方の体験を聞くことができてよかった。

地元にある会社を調べてみたいと思った。進路を決めるときも未来のこと考えて決めたいと思う。

将来について真剣に考えようと思った。

卒業後、第一技術学校に進みたいと思っており、その後仕事に就きたいと思っている、鹿児島での仕事は難しそうだった。高専から第一技術学校へ進んだ人があるのか知りたいとも思った。

トヨタいいなと思った。

高専を卒業した後の事はぼんやりとしかイメージできていなかったのがためになった。

もう少しいろいろな話を聞きたいと思った。

仕事について具体的に考えることができた。早めに進路を決めておきたい。

高専卒の人の話ということもあって高専卒の人の進路について良く分かった。

様々な企業に就職できることを知れた。

良い選択ができるように、はやめに進路について考えておきたいと思いました。

いろいろな場所で働いている人がいることにびっくりした。

高専を卒業した先輩が県内でどんな仕事についているのかを知れてよかった。自分の目標がまだ決まりきっていないので、今日の講和を聞いて、今後の目標に向かって、社会貢献したい。

自分の住んでいる場所で働きたくなった。

地元で働きたいと思った。

もし県外へでるならしっかり計画をたてようと思った。

自分の選択次第でいくらかでも将来の進路をつくることができることがわかった。なんとなく就職してなんとなく人生をおくることがないようにいまのうちから考えることが大事だと思った。

OBがどのような活動をしているか知りことができ、学ぶことも多かった。

職場の環境がよさそうだった。

知っている事を言っていたので、あまりためにならなかった。

自分の進路を決める時に参考にできたらいいなと思った。

エンジニア以外の道もあることに驚いた。将来のことを常に考えておこうと思った。

先生になるのも大変だなーと思った。

卒業後の選択は重要なものとだと改めて思った。

仕事につくのは難しいと思った。

これからの進路に役立ちそうだったのでよかった。

特別講義(H30.12.5 14:40～16:10)

対象学科：都市環境デザイン工学科 2 年生 42 名

・講師：霧島市役所 企画部 企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏

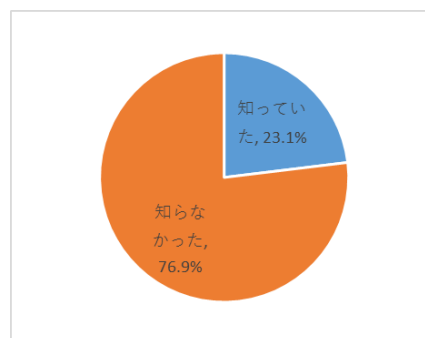
・OB 事例発表：

霧島市役所 建設部 建設施設管理課 道路維持第2グループ 技師補 福山 哲平 氏

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

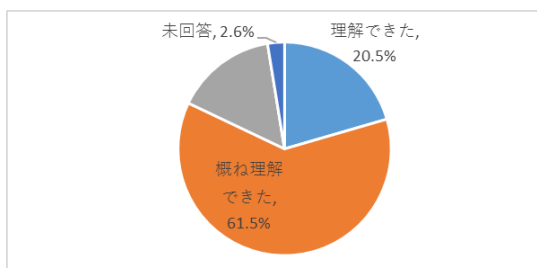
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	9	23.1%
2	知らなかった	30	76.9%
	N(%ベース)	39	100

・授業・・・0件
 ・マスメディア(テレビ・ネット等)・・・8件
 ・両親・知人・・・0件
 ・その他(広報きりしま)・・・1件



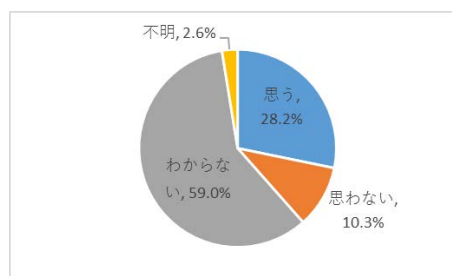
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	8	20.5%
2	概ね理解できた	24	61.5%
3	あまり理解できなかった	6	15.4%
4	理解できなかった	0	0.0%
5	未回答	1	2.6%
	N(%ベース)	39	100



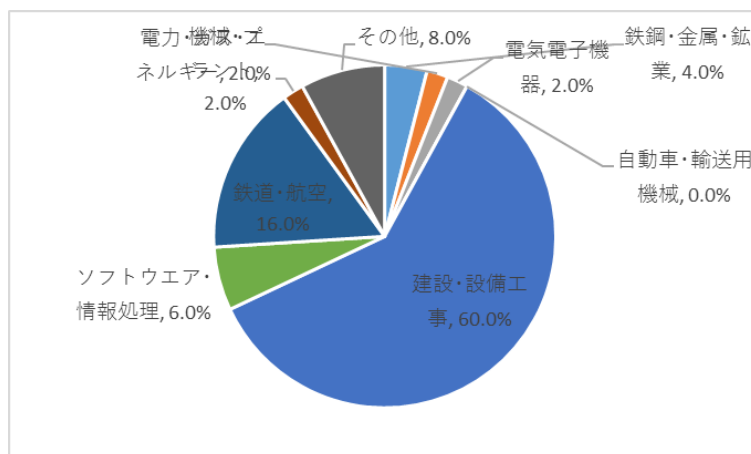
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いませんか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	11	28.2%
2	思わない	4	10.3%
3	わからない	23	59.0%
4	不明	1	2.6%
	N(%ベース)	39	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	2	4.0%
2	機械・プラント	1	2.0%
3	電気電子機器	1	2.0%
4	自動車・輸送用機械	0	0.0%
5	建設・設備工事	30	60.0%
6	ソフトウェア・情報処理	3	6.0%
7	鉄道・航空	8	16.0%
8	電力・ガス・エネルギー	1	2.0%
9	その他	4	8.0%
	N(%ベース)	50	100



5. 今回の特別講義(霧島市による講演)を受けての感想を自由に書いてください。

霧島市で就職したいけど建設など自分の専門分野の職場が分からないので結局悩むばかりだ。
霧島市の企業もよく調べて、霧島市での就職も考えたいと思った。
鹿児島県とは別に霧島市でも取組を行っていることがわかった。今回の特別講義を受け、鹿児島に残りたいと少し思いました。
少子化問題はその要因もそれによる影響も自分が思っていた以上に規模が大きく、深刻なものだと思った。まずは子育てしやすい環境を作ることが大切だと思った。
地方創生はすばらしい。
人口減少の話聞いて不安になった。地元で就職でもいいかなと思った。
地元就職することをもう少し考えてみようと思った。
人口減少の予想をみてそんなに深刻なのかと思い、改めて考える必要があるのではないかなと思った。
霧島市が少子高齢化にすぐとりくんでいて驚いた。
進学先や就職先についての知識や情報を得られる機会が少なく感じていて、進路にもかなり悩んでいる最中なので、もっと進学先や就職先の情報がたくさん、簡単に得られる機会があればいいと思います。
資料に基づいて丁寧に説明なさっていたので分かりやすかった。また、さまざまな地元企業の話は将来の参考となった。
霧島市の会社にも様々な活躍をしている会社があってすごいと思いました。
大人が近いと感じた。
鹿児島県、霧島市が学生の県内就職者を増やすためにいろんな取り組みをしているということがわかった。霧島市にある企業について知ることができて良かった。
すぐくためになりました。
年金などがどうなっていくのか怖いと思った。
地方創生についていろいろ知れた。将来に役立てたいと思った。
地元だけでも沢山の企業があることを知れてよかった。
人口減少は大きな問題だと思った。
人口減少をどうにかしたい。
人口が減ってきていた。
東京圏の合計特殊出生率は極めて低いことを初めて知った。
人口減少について考えることができた。
鹿児島県から福岡などに転出する人が多いのはわかっていたが、東京に転出する20代がここまで多いとは思わなかった。
とても良かった。
将来について考えることができた。
人口がへっているんだと思った。

6. 今回の特別講義(OB 事例発表)を受けての感想を自由にご書いてください。

勉強をちゃんとしないといけないなあと思った。
今のうちにきちんと勉強して、自分の身につくようにしたい。
部活・勉強・遊びを思う存分楽しもうと思います。また、霧島市役所に勤めてみたいと少し思いました。
もう少し詳しい仕事内容をきいてみたいと思いました。
「地元からの要望」や「地域の人が使う公共物の点検」など、地域に密着した身近な仕事が多いと思った。地元就職するのも良い選択だと思った。
高専生の将来は予想以上に安泰だと感じた。
今できることをできるだけやっとうと思った。
今の自分達へ向けての講義で聞きやすかった。
とてもいい職場なんだと思いました。
OBの方だけあって、話を身近なものとして聞くことができ、自分が「今」しないといけないことも少し明確になりました。
自分は将来県庁や市役所への就職を考えているため、とても参考になった。今回の講義を経て進路について少しずつ考えていきたい。
市役所に興味があるので良かった。
学生のうちは遊びます。
学生時代を楽しんでいて、ぼくも楽しもうかなと思った。
住民からの要望に応えるのは大変そうだけど、やりがいがありそうだなと思った。しっかり勉強したいなと思った。
勉強をがんばろうと思った。
声は小さかったが内容はとても面白い物だと感じた。
霧島市役所で働いてみたいと思った。
具体的な業務内容が聴けて良かった。
市役所で働きたい。
市役所に入りたい。楽しいことはたくさんしたい。
将来のために参考になった。
地元の要望に応える部署だとわかった。
今からがんばらなくてはならないと思った。
興味深い話だった。

特別講義(H30.12.12 14:40～16:10)

対象学科：電子制御工学科 2 年生 43 名、情報工学科 2 年生 40 名

・講師：日置市役所 総務企画部企画課 政策推進係 係長 馬傷 学 氏

・OB 事例発表：

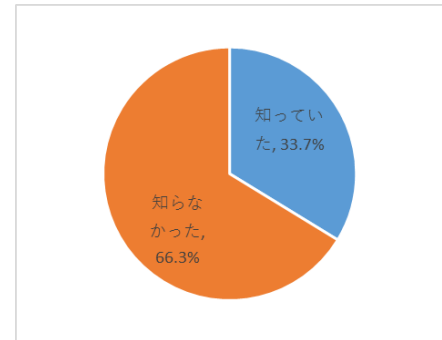
日置市役所 産業建設部農地整備課 農地整備 2 係 主査 内 大輔 氏

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	28	33.7%
2	知らなかった	55	66.3%
	N(%ベース)	83	100

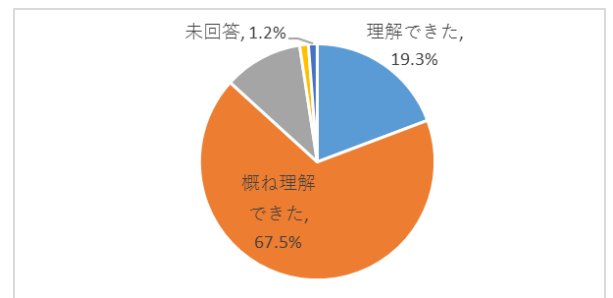
複数回答可

- ・授業・・・3件
- ・マスメディア(テレビ・ネット等)・・・24件
- ・両親・知人・・・2件
- ・その他・・・0件



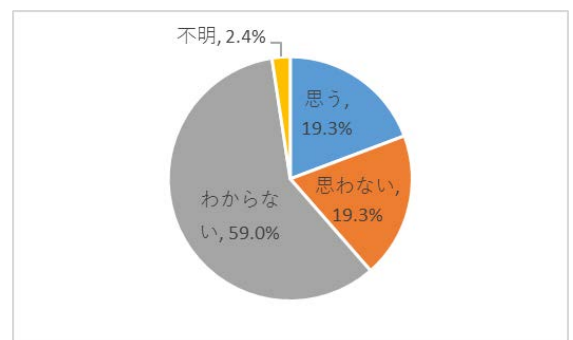
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	16	19.3%
2	概ね理解できた	56	67.5%
3	あまり理解できなかった	9	10.8%
4	理解できなかった	1	1.2%
5	未回答	1	1.2%
	N(%ベース)	83	100



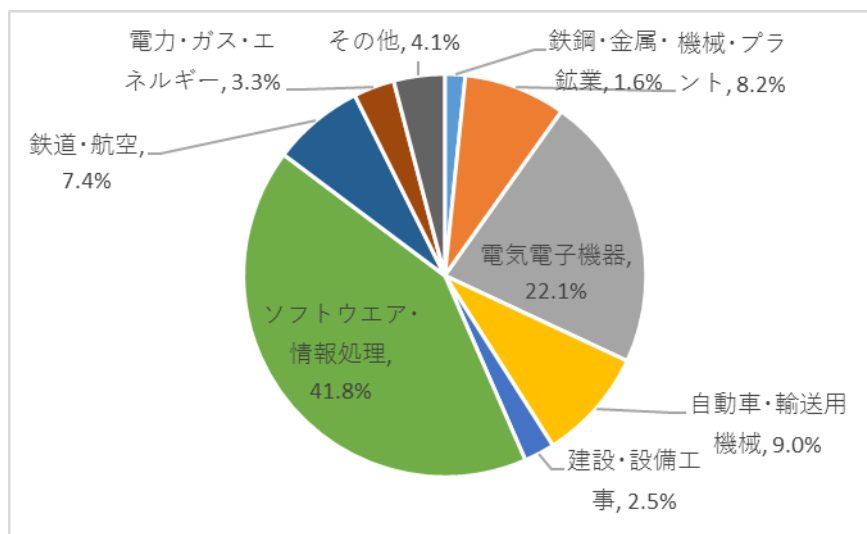
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いましたが。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	16	19.3%
2	思わない	16	19.3%
3	わからない	49	59.0%
4	不明	2	2.4%
	N(%ベース)	83	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	2	1.6%
2	機械・プラント	10	8.2%
3	電気電子機器	27	22.1%
4	自動車・輸送用機械	11	9.0%
5	建設・設備工事	3	2.5%
6	ソフトウェア・情報処理	51	41.8%
7	鉄道・航空	9	7.4%
8	電力・ガス・エネルギー	4	3.3%
9	その他	5	4.1%
	N(%ベース)	122	100



5. 今回の特別講義(日置市による講演)を受けての感想を自由に書いてください。

人の流出を防ぐための努力を思っていたよりもしていたので、驚いた。

特色ある事業を行い、地方を活性化することは難しいのだとわかった。その中で市職員の努力があるのだと知った。

仕事・働くことが少子高齢化に深く関わっていることがわかった。地元もの将来を考えた仕事に興味を持った。各地域の地方創生についての働きを詳しく知りたいと思った。

少子化対策として、お金が関係する取り組みは知っていたが、少子化問題への対策としてAIやロボットなどがあって、自分も少子高齢化問題に関われそうだった。

子育てしやすい政策などで、環境づくりがなされていて、成果が出るというと思ったが、地域の特徴を生かすとなるとまだまだ考えていかなければならないのかなと思った。青少年の県外進出を少しでも抑えることも必要だが、出生率を上げるとむしろ進出率は上がってしまうと思う。

様々な取り組みを見て、地方創生の難しさと大切さを知ることができた。

いちごを管理するのを機械に任せているなど、機械をいろいろな事に導入していることに驚いた。

多くの課題を自分達が解決しないといけないと実感した。

日置市の人口の変化について詳しく知ることができ人口減少についてよくわかった。

人口減少が深刻なことがよくわかった。

人口減少を防ぐ対策として子育て支援が充実していると感じた。

地元の為に頑張るのは素晴らしいと思った。

市役所の人だけが頑張っても地方創生が進んでいくのは難しいと思った。市民も巻き込まないと難しいだろうと思った。

市がかかえる問題について知る事が出来ました。

日置、とても頑張っていたので住むのもありだと思った。

地元の人口が少なくなっているのは少し悲しかった。

県内のみならず、日本の現状の課題を改善するための方法などを現地の人から聞くことができて良かった。

人を呼び入れる、出生率を上げるために各市町村が必死になっているのがよく分かった。

他にないところを伸ばすと言う考え方がとても大事だと思った。

地方創生では、対策などを考えるのも難しい中、結果を出すのも難しいので大変だと思う。

鹿児島県が、県外就職率全国1位ということを知った。自分は県内で就職したいと思った。

出生率を2.0以上に上げるのは難しそうだった。

子育て支援を鹿児島などの大きいところと比べるときついことを知れた。有名なものを生み出そうとする考えはすごいと思った。

地方創生について、どんな取り組みを行っているのか理解することができた。

日置市がたくさん事業を行っていること知った。鹿児島市は人が多く、確かに他の市は厳しいと感じた。オリーブ産業を発展させようとしたり、新しいことを始めていくことが重要だと思った。

日置市の現状を取り組みが分かった。ある課題に対してどの論点から物事をとらえるかが重要だと思った。視野を広げることは大事だと思った。

財政力に左右されないような地方創生ができれば良いと思った。

地方において少子高齢化が特に大きな課題になっていて多くの対策がとられていた。自分自身でももっと少子高齢化について考えようと思った。

少子化のことがわかった。

僕の町もじいちゃんやばあちゃんばかりでやばいと思った。

少子化問題が進んでいることを再認した。私はスマートフォンの普及により、人と人が直接コミュニケーションをとらなくなったことが出生率減少の理由の一つだと考えます。若者を対象とした町や市の行事を増やすなど、いかがでしょうか。

地方創生事業のことを詳しく知れた。少子高齢化が進んでいるのは知っていたが、国や自治体がそのような対策をしているのか知らなかったため。

会社を紹介する回数を増やしても、会社に魅力がなければ、むしろ逆効果なのではないでしょうか。

自分のまちに関して興味を持つことが出来た。

少子高齢化に対してどのような論点や問題点を考えていかないと、いけないと感じた。日置市での対策たくさん事業を行っているすごいと思った。

メディアなどでよく聞いたり、授業などで少子化の話はしていたが自分が思っていたより身近なところでも深刻化していたから感心した。

今までの地方の人口が減少していることにあまり危機感を感じていなかったが、今回の講演で地方消滅してしまうことが分かった。そのために具体的な対策を立てて政策を行っているのですぐに感じた。この話を参考にして、就職について考えたい。

地方行政の政策と少子化問題・高齢化問題は密接な関係があることがよく分かった。民間企業と地域に密接な関係があり、労働人口の推移も課題となっていることがわかった。

なぜ僕たちにこの話をしたのかいまいちわからない。

未来の人口減少についてそなえて動いていることに関心を持った。RPAの活用についてもっと知りたいと思った。

それぞれの地域で様々な財政の工夫としていて地域の特徴を生かして事業を考えるのは難しいなと思った。自分の地元がどんなことを行っているのか興味をもった。

よく分からなかった。

少子化対策や地元のために事業をすることはとてもいいことだと思った。

少子高齢化に対してここまでたくさんの取り組みをされていると知りませんでした。もっと地元での人口が増えてくれるといいなと思います。

初めて知ることが多かった。

日本の少子化についていろいろな案がどこの地息でもでているけど、どうしたら1番の改善になるのかかがわからない。

人口が全体的に減っていた。

自分の地元の市も若者の人口が減少していて悲しくなった。若者を増やすには、植物を育てるだけじゃなにもかわらないと思う。

日置市の地方創生事業を通じて、私たちが会社にてでから、少子化対策にどのようなことをすればよいか考えるきっかけになりました。

ありがとうございます。

農業のIoT、再生可能エネルギー、RPA等とてもいいと思ったが、必要な人の数が減ったとはいえ、次の世代に引き継げるのか各機器の点検、交換の費用などどうなっているのか気になる。

日置市の課題が分かりやすかった。鹿児島県の県外就職率が高くてびっくりした。

住民のために又、これかの社会のためにその時その時の一番良い政策を実施していて、住民のことや住みやすい街を作ることを考え実施していることがすばらしいと思った。

日置市では少子化問題の対策として、いろいろなことしていることを知った。再生可能エネルギーを推進することによって、電気料金が安くなるのはいいことだと思った。

今回の講義を通して地方での活動が活発に行われていることがわかった。

始良市の人口が増えていることを初めて知った。

日置市が少子化などのことにいろいろ取り組んでいるのを初めて知った。他の市のことも気になったので調べてみたいです。

日置市が未来を考えて、地方創生のことについて活動しているということを学べてよかった。日置市と直接関わることは少ないかも知れないが、今日学んだような活動をしていることを頭に入れて協力できればいいなと思いました。また、自分が住んでいる市（霧島市）についても協力していきたいと思いました。

地元のことをいろいろ考えているんだなと思った。

グラフなどが多くて分かりやすく聞くことができた。市の問題についてしっかり考えてあった。

出生率に関する具体的な話や、鹿児島県や日置市における製造業の話など面白い話を聞けてよかった。

少子化対策に熱心に取り組んでいることが伝わってきた。

少子高齢化や人口の減少がここまで深刻だと初めて知った。

「日置市の地域創生について」を聞いてみて、市での改善点を見つけ、改善点をどんどん改善していて自分の知らないところでいろいろな改善されていて住みやすくなっていたんだなと思った。

あまり日置市については知らなかったが、日本全体から見て、地域やその後の現状が分かった。今後の生活について考えさせられた。

とてもおもしろい話を聞けました。ありがとうございます。高専に来てよかったと思えるような高専生活を送りたいです。

少子化の問題はとても深刻であると知った。

地方の少子化はとても深刻だと思った。

自分達のまちをよりよくするためにいろいろなことをしているのに驚いた。

少子高齢化がこのままだとかなり大きな問題になることがわかった。

市を活性化させるために、たくさんの取り組みをしていることがすばらしいと思った。

高校卒業者の県外就職率が全国1位ということを知り、人口減少の要因になっていると分かった。鹿児島県に就職先を増やして地域経済の拡大をしないといけないと思った。

少子化問題と同時に自分の地域の過疎化についても考えないといけないなと思った。自分達の住んでいる地域、地元にも活気を与えられるような存在になりたい。

ロボットやAIが大きな影響を与えていることを知った。電気の地産地消をしていることが驚いた。

地方創生についてたくさんの助成、いい制度があるのでもっと全面的にアピールして欲しいと思った。

鹿児島の高校卒業者の県外就職率が2年連続で全国1位ということを知って、鹿児島が過疎化していくんじゃないかと心配になった。県内の少子化対策として、住んでもらうためにお金だけではなく、商品券を支給するということを聞いて、よく考えられているなと思った。

地域創生において、「その地域の特徴をいかすことが大切だ」と言う言葉が印象に残りました。

6. 今回の特別講義(OB 事例発表)を受けての感想を自由に書いてください。

高専にいる間に自主的に勉強をして、多くの資格をとろうと思った。

県内外の就職はどちらが良いのか？と言うことをずっと思っていたが良い部分はそれぞれ違うことが分かった。自分の求める職場環境を慎重に考えていきたい。

民間企業と公務員の具体的な違い（休みや良い、悪い点）が分かってよかった。私はまだどのような仕事に就くか決まっていないので、参考になった。また、私は県外、県内の進路も決まっていないがこの講義を受けて県内に行きたいという気持ちが強まった。仕事をする上で大切なことは、将来の為に今のうちから意識していきたいと思った。

県内と県内での働き方の違いが公務員の仕事の様子について知れてよかった。今からでもなるべく資格は取りたいと思った。今の時間を無駄にせず「自らの勉強」ができるようにならなければならないと思った。県内で働くにも県外で働くにも、自分で考えることが大事だが、周りとのコミュニケーションが大事なのだと感じた。

色々な環境で働いていたお話がとても参考になりました。

私はどちらかといえば、個人的に県外で働きたいと思っていました。今回の話を聞いて、県内にいる県外に行くかを深く考えることが出来ました。

専門の勉強が将来の役に立つと強く分かったので、今まで以上の勉強をする。

公務員のことについて詳しく知ることができた。将来の参考にしたい。

県内と県外の違いについてわかった。

資格を取得する大切さを理解できたと思う。

企業についてのことが知れてよかった。

民間企業と公務員の違いを聞いて良かった。一長一短だと思った。休みがあるほうがいい。

高専を卒業した後の進路を考えるきっかけになりました。

高専を出たらそうすればいいのだと知った。

これからの授業を真面目に受けて行こうと思った。

民間企業と公務員の特徴・違いなどわかり将来の道に対する見方が変わった。

公務員は条件は良いが、ボランティア活動は嫌だと思った。

将来について考えるいいきっかけになった。

県内県外ともに良いところ、悪いところがありどちらが良いとは言えないので自分に力をつけるためにも一度は県外に出てみようと思う。

県外・県内で働くことのメリット・デメリットが知れた。

県内に残りたいとは思わなかった。

県内と県外で働くことの違いを知れた。よく考えて進路を決めたい。

仕事をする上で大事なことや、県内で働くことのメリットを学ぶことが出来た。

公務員について、あまり知らなかったので知ることが出来てよかった。自分は県外に就職しようと思っているが、今回の講義で「大切なこと」を教わったので、それを意識して頑張りたい。

将来就職するときに大切なことを聞いて良かった。

OBの方の話を聞くことが出来、貴重な経験が出来た。若いうちに沢山勉強したい。県内企業に就職して地元で貢献したいと思う気持ちが強くなった。

民間企業で働くメリット、デメリット、公務員として働くメリット、デメリットが良くわかった。将来、職場を探すときに役に立つと思った。

就職するのにも民間企業と公務員、県内、県外で給料や休みなどに差が出てくることが分かったので、仕事はよく考えて選びたい。

公務員のいいところがあった。

仕事は以外にも楽しそうだった。

学生の為民間企業、公務員の仕組みについて、詳しく分からなかったので、とても勉強になりました。

民間と公務員の違いが詳しく知れて参考になった。

冊子にのっていたキャラクターは何のキャラクターでしょうか。

将来は福岡の大学に行き、都市部で働きたいと思っていたが、県内で働くという選択肢があるということを知った。

民間企業、公務員、県内、県外での特徴を知ることができ良かった。今からでも出来ることをしっかり取り組んでいきたいと思う。

民間企業と公務員、県内と県外という様々な立場から話を聞いて良かった。

民間企業と公務員との違いや仕事をする上で大切なことを分かりやすくまとめたので理解できた。今のうちに色々な資格をとっていききたいと思った。

県内と県外、そして民間と公務員での違いが分かった。将来就職するときの参考にしたい。

地元で働くことのメリットや仕事のコツなどを聞いて良かった。

高専卒ということで仕事をする上で大切なことを自分も授業中から心がけていけたら、僕も将来活かせると思った。

もともと県外で働きたいという気持ちが大きかった。色々なことを比較して話してくれたので分かりやすかった。

よく分からなかった。

就職は県外に行くつもりでしたが、地元で働くのも良さそうだなと思いました。

興味深い内容がいくつかあった。

県外で働きたいと思っていたが県内もいいなと思った。

様々な生き方があるんだなと思った。

県外で仕事をして思ったことを聞けてとても参考になった。自分も大人になったら、地元の活性化の手助けをしたいと思った。

私たちが高専を卒業してからどのような道に進むか考えたいと思います。ありがとうございました。

民間企業で昇進が早い理由を聞いて少し怖くなった。今のところ就職を考えているので親に話を聞いたりして色々と考えてみたい。

県内か県外で迷っていたので聞けて良かった。色々な人から話を聞いたりして、色々と考えてみたいと思う。

仕事をする上で人々関係や頼れる人が近くにいるということ、また自分の仕事への意思、態度は今後とても大切になってくると思った。

県外か県内かどちらに働きに行くか、5年生になるまでに決めていきたい。

今の自分は民間企業のようなモノやサービスを提供して利益を得ることが目的の仕事に就きたいが、公務員のようにお金の為ではなく人々のために働くことが目的の職業も魅力的だと思った。

これからの就職活動頑張ろうと思う。

就職活動を真剣に考えてみたいと思った。

県内で働くこともいいなと思った。またじっくり考えてみたいです。

仕事に関して選択した場合の様子がおかしくおまかに分かりました。将来の自分がどんな選択をするかどうか正直分かりませんが、どんな場所でどんな仕事をして懸命に仕事に対する姿勢、構え方は自分で高めることができるので、そこだけは常に心に留めておきたいです。

民間企業と公務員の良い点悪い点がたくさん知れてよかった。

仕事をする上で大切なことが良くわかった。今までは県外で働くかと思っていただけ県内のことも考えてみようと思う。

県内と県外でも仕事をしたことがある人の話しというのはとても貴重だったと思うので、自分のこれからの人生の参考にしたい。

地方企業もいいものだなと思った。

県内に残るか県外に出るか迷っていたのでとても参考になった。

OBの意見だったのでとても参考になった。例えば県内で働くことと県外で働くことの違いや仕事をする上で大切なことなどです。自分は県内で働くか県外で働くか悩んでいたのもとても参考になった。

県内か県外で働くことの違いについては興味深かった。将来的にどうするかOBの意見なのでとてもありがたかった。

高専で受けたことが社会で生かせるということをおっしゃっていたのでこれからも頑張ります。

工事の手当てがすごく手厚く、ちゃんと手続きをとれば補助が沢山出ることを知った。

僕も県内に残るかとても迷っていたので、県内と県外で働くことの違いを明確に出来たので良かった。

就職するにあたっての心がけるべきこと等を聞けて良かった。

留年しそうでそれどころじゃないです。

どんな仕事でも積極的にすることが仕事に対する心構えとして書いてあって、自分も今から何事にも積極的に行動したいと思った。

講話を受ける前の私はただなんとなく公務員になりたいと思っていました。資料を見たりお話を聞いたりして大変なところも多く、自分のことより顧客への配慮を優先すべき点等から、公務員になるのにも覚悟が必要だと感じた。将来自分がどの道に進むかは未だ分からないが、自分という存在を大切にしつつ周りの方のことを考え、世間から必要とされる人間になりたい。

民間企業や公務員の特徴を捉えることが出来たと思う。

高専から地元に残ってみたいと思った。

仕事をする上で大切なものを学べた気がした。まだまだ将来の夢が決まっていない僕にとって、県内と県外、民間企業と公務員の利点などが聞けて、とても参考になった。

仕事をするうえで「分からないことがあった時は、すぐに人に聞かずに、1回自分で調べることが大切」と言うことを学びました。